

このコーナーは、長浜の見どころ、市民の皆さんの活動の様子やまちで見かけたほっとな話題を紹介します。あなたが知っている旬の話題などがあれば、市民広報課（☎65-6504）までお知らせください。
市公式Facebookページでもさらに詳しくみることができます。

<https://www.facebook.com/nagahama.hotnews>

「長浜 ほっとにゅーす」 検索

3月1日(火)

思い出の学び舎で最後の卒業式

高等学校再編により、現在の校舎では最後となる長浜高校と長浜高等養護学校の卒業式が挙行されました。

昭和51年の開校以来、多くの生徒たちが巣立ってきた校舎はまもなく取り壊され、平成30年4月には長浜北高校として新校舎が完成する予定です。

卒業式を終えた生徒たちは、友達や恩師、学び舎との別れを惜しみながらも、晴れ晴れとした表情で巣立っていきました。



3月1日(火)

いま、地方が面白い

地方のまちづくりを考える「ソーシャルなまちづくりシンポジウム」が市民交流センターで開かれました。

月刊ソトコト編集長の指出一正さんと写真家MOTOKOさんが、全国のユニークな取組事例を交えて講演。第2部では、地元長浜で農業や育児、医療など様々な分野で活躍する6人を加えて、長浜の将来や可能性について語り合いました。

約150人の市民が訪れ、ともにまちづくりを考えました。



3月5日(土)

もしもに備える大切さを学ぶコンサート

長浜音楽協会主催の「スプリングドリルコンサート」が、びわ文化学習センターで開催されました。

音楽鑑賞中に火災が起こった場合を想定して避難訓練が実施されるというユニークなコンサートで、演奏中に館内の非常ベルが鳴り、来場者はスタッフの誘導に従って避難しました。

コンサートでは、ピュアプラスや長浜よし笛の会、滋賀県警察音楽隊の素晴らしい演奏が披露されました。



3月6日(日)

琵琶湖の恵みに舌鼓

朝日漁業会館を主会場に、恒例の「グルメの集い」が開催され、約180人が湖国ならではの郷土料理に舌鼓を打ちました。

湖魚料理の美味しさを多くの人に味わってもらおうと、地元漁協が始めたもので、今回で26回目。湖北に伝わる漁師料理「うなぎのじゅんじゅん」やビワマスの煮付け、アユの天ぷら、しじみ汁などがテーブルにずらり。地元の人たちの温かいもてなしに、今年もたくさんの笑顔があふれました。

3月6日(日)

長浜発“魅せる”よさこい

新たなスタイルのよさこいイベント「よさこいライブ飛翔2016-ai-」が、浅井文化ホールで開催されました。

5年目の今回は地元滋賀4チーム、他府県から8チームが参加。全国でも類を見ない「バンドによる生演奏」で踊るよさこいは大迫力。チーム混合の楽しいダンスコラボや、全チームの大旗が舞うパフォーマンスもこのイベントならではの。最後は観客を巻き込み、会場全体で踊る圧巻のフィナーレで幕を閉じました。



3月7日(月)

富田人形が“かけはし”に

人形浄瑠璃「富田人形」が北米サウスカロライナ州で公演されることになり、市長から、両市の文化交流を深める親書が富田人形共遊団に託されました。

メンバーは、州内グリーンビル市の「国際月間」に合わせて開かれる公演に招かれ、現地で6回ほど上演するほか、ワークショップなどにも参加。阿部秀彦代表は、「両市の交流の礎となるよう頑張りたい」と抱負を述べました。



3月8日(火)

新たな知の拠点が完成

長浜バイオ大学の新棟「命翔館」が竣工しました。

県内唯一となる臨床検査学プログラムの実習室、学生たちの自主的な学びのためのアクティブラーニングルーム、市内の小中学生が電子顕微鏡などを使い科学の面白さを体験できる「長浜学びの実験室」を備えた充実の施設です。

全国的にも非常に珍しい「大学と小中学校の連携」で、今後長浜が理科教育の最先端地域になることが期待されます。



3月11日(金)

復興への祈りを込めて

東日本大震災から5年。「観音文化ネットワーク会議」の呼びかけもあり、市内の各観音堂において、追悼法要等が営まれました。

このうち、高月町西野の西野薬師堂では、震災で犠牲になられた方々の鎮魂と被災地の日も早い復興を願い、地域の人たちが読経・焼香し、静かに手を合わせました。